

日新

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
 日日新 ひび あら 日々に新たに
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり
 出典 「大学」

日新地区だより 53号



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：まちの未来づくり日新 広報部会
 福井市文京5丁目1-8 日新公民館
 発行日：令和2年(2020年)3月20日

・ ・ 新型コロナウイルスの影響で日本中・世界中が ・ ・ 林 健二

新型コロナウイルスの名称「コビッド19」(右記参照)の脅威の感染力により日本中で各種のイベント(スポーツ・各種大会など)の縮小・中止、また学校の休校。これらによる景気の低迷が起こっています。

我が日新公民館の各種行事も中止になりました。毎年度末の「三世代合同交流会」(公民館教育事業などの活動報告)も中止になりました。

新型コロナウイルスの名称「コビッド(COVID)19」は「CO」…コロナ(corona)「VI」…ウイルス(virus)「D」…疾患(disease)を併せた造語です。

三世代合同交流会報告書から(交流会で報告される予定であった)

三世代合同交流会では公民館の各事業の活動報告をはじめ、子ども教室の合同閉講式や美化活動精勤者の紹介などを行っています。それぞれの発表を見たり聞いたりして一年間を振り返るとともに、懇親会を通して子どもから親世代、高齢者まであらゆる世代が交流を深める会です。開催中止に伴い、報告予定だった内容を一部紹介したいと思います。

子どもの広場(少年教育事業)

今年度は、「啓新高校のお兄さん達によるサッカー教室」「子どものための防災訓練」「あきまつり(ハロウィンパーティー)」「もちつき大会」「伝承遊びにふれてみよう」などを行いました。児童館、児童クラブのご協力のもと多くの子どもたちに参加してもらい、たくさんお勉強してもらいました。



ニッキース(家庭教育支援事業)

昨年度まで子育て支援事業として活動してきましたが、今年度からは家庭教育支援事業となりました。主に未就園児を対象とし「英語リトミック」「保健センターの方による健康相談会」「グッド・トイ講座」「クリスマス会」の事業を行いました。また児童館にて「子育てひろば」も開催しています。

パレットサークル(家庭教育支援事業)

今年度も様々な講師の方に来ていただき、「陶芸教室」や小学生を対象とした「絵の描き方講座」、他にも「パーソナルカラー講座」「骨格診断講座」「卵料理講習会」「ヨガ体験」などを行いました。また育成会との共催事業の「地引網体験」は、毎年台風等で中止が続いていましたが、今年度ようやく念願叶って開催！どの事業もたくさんの親世代の方に参加していただき、より良い子育てのきっかけづくりになりました。



青年教育事業



今年度も若者たちの地域愛を育む取組として、公民館まつりへの模擬店企画、「はたちのつどい」の開催、各事業への共催などを行いました。



学校教育の大きな転機が訪れる！！！！

2020年の年度(4月)の幕開けは激動であると言えます。

新型コロナウイルスの影響により、3月の初めから全国の学校が休校になりました。また、小中学校では大幅な教育内容の改正が、小学校は今年度から、中学校は来年度から行われます。当然、高校入試も大学入試も変わり始めます。この教育の改正では、簡単に言うと一般的にテストの点数が高ければ頭のよい子・できる子との評価であったと思いますが、今回は各教科を超えて総合的に物事を考える力(グローバルな考え方)、独創的な発想を育てる力を求めているようです。

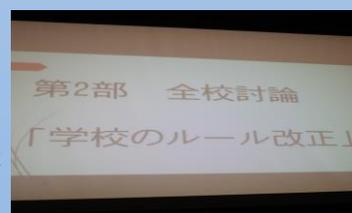
そこで今回はこれからの学校教育について書いてもらいました。

中学校教育で大切なこと

藤島中学校 校長 高柳 浩樹



中学校は「大人になってから、自立して生活できる力を育てるところ」と考えています。生徒たちが将来働き始めた時に、自分で色々なことを工夫して仕事をし、様々なことにチャレンジできるようになってほしいと望んでいます。このような生徒を育てるため、今年の本校の教育活動活動のキーワードを「主体性」としてここまで取り組んできました。例えば、授業では積極的に発表ができる、自分で計画を立てて学習できる、各行事やクラウド活動(学年をまたがるグループ活動)では自分たちで企画・運営を行う等です。生徒たちが行う全ての学習・活動において、生徒が自分の考えを持って、自分の意志で取り組んでいく後押しをしていこうと全校一丸となって教育活動を展開してきました。その1つの例として、今年度の生徒会は『自分たちで校則を改正する』という目標を掲げ、生徒総会で全校討論をする中で3つの案のうち2つを変え1つは変えないと決定し、教員と交渉し教員側に認めさせるという実績を残しました。まさに「主体性」を最高に発揮したよい例で、生徒の成長を感じることができました。



今後も「大人になってから、自立して生活できる力を育てる」の目的を見失わずに、教育活動を確実に展開していきます。

小学校で外国語活動・プログラミング

日新小学校 校長 横山 美弥子

今年の冬は雪が少なく、子どもたちは、天気の良い日は校庭に出て元気に過ごしています。そして、日々の授業と様々な行事の中で一人一人が多くを学び、成長につなげてくれています。本年も、日新地区の皆様には、本校児童の健やかな成長に多大なご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

小学校は、令和2年度より新学習指導要領が完全実施となり、3年生からの「外国語活動」導入やプログラミング的思考の育成等の活動も本格化します。「知



・徳・体」にわたる「生きる力」を育むために「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきます。日新小学校も、新しい変化に柔軟に対応し取り入れる視点と、これまで積み重ねてきた本質的なものを充実していくことを大切にし、子どもたちの学習活動に努めていきたいと思えます。

その中で、今年も、PTAと地域の方々に講師をお願いしいろいろな職業や職種を知り体験する「アントレキッズ」(5・6年生)、いきいきライフセミナーの方に協力いただいた「日新地区のひみつを探れ」(3年生)など、各学年で地域・家庭と協働した学習を進めてきました。地域の方から多くを学ぶことで、子供たちは自分たちの住む地区の良さや自慢できる宝を見つける



ことができました。今後も、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



アントレキッズ

ちょっと一服



春の訪れ(ふきのとう)



足羽山から

英語習得の近道は母語が大切！

インターナショナルスクール・エンカレッジ

代表 藤田 侑平

英語で行う学童保育「エンカレッジ」（福井市）を運営している藤田と申します。小中学生の外国語・英語学習において、私が大切だと思うことは以下の3点です。

実は母語としての国語教育が世界で活躍する近道

私は北陸高校を卒業し8年間英国の大学に留学しました。留学時代には日本人学校（補習校）で国語の教員をしていました。この経験から、世界で活躍するためには英語の重要性だけでなく、国語の重要性を忘れてはいけないと考えるようになりました。英語だけでなく、母語である日本語をしっかりと学ぶということが大切だと思っています。



発達段階や知的好奇心のためには、早期外国語学習が肝心

日本に帰国後、私は日本の小学校でALTとして勤務し、その後、小学校で教員として外国語（英語）を教える経験もしましたので、小学校の先生方がどれだけ苦勞されているか、人材という点で外国語早期教育を実施することには困難が伴うことを知っています。しかし、現在バイリンガル教育に携わっている立場として「外国語を早期から学習させる」という事と「母語が大切」という事はどちらも子どものためを考えると、とても大切な事で、両立する事だと申し上げます。特に、言語学習は子どもの発達段階と知的好奇心に合った学びをする事が肝心です。これは母語である日本語でも外国語である英語でも同様です。私は中学生になって初めて英語学習をした世代です。中学1年生で「This is a pen.」を習っても、中学生の知的好奇心を刺激することはできません。

小学校では喜び・興味関心の授業を

私は中学生の時に英語が得意ではありませんでした。ただ、母が英語に熱心で、小学生の時に母の英会話の先生（アメリカ人）に遊んでもらったり、お土産でロサンゼルスドジャースのバッジをもらったりしました。このときの記憶が今でも鮮明に残っていて気づくといつか外国に行ってみたいと思うようになっていました。これも経験談になってしまっていますが、小学生の時には「外国語を使えたという喜び（成功体験）」だったり「外国の文化に対する興味関心」が大切かなと思っています。



交通部会

「10周年を迎え」・安定的事業基盤の確立を目指し

山口 満

平成22年の4月度にまちづくり交通部会が誕生して、早くも10年目を迎えようとしています。このコミュニティバスの運行事業の推進に際し、経過状況は、いろいろ数多くの難題もあり、極めて厳しい状況に至った事も有りました。

しかしながらその都度、場面、場面に於いて、地域住民の力強い後押しと、各団体の役員の人達の多大なるリーダーシップに依り、今日現在に到っております。誠にありがたく心よりお礼を申し上げます。

新たなる日新のニューシンボルとして、今事業の「灯」は絶対に消す事なく、しっかりと対応する事、又より活性化を高める事が、我々役員を務めで有り責務かと思われまふ。少子高齢化の時代的背景の過程で、私達の日新地区においても700名強の後期高齢者、そして身体障害者の人達に対しても日々の活動を通じコミュニティバスが最大の心の糧となるべく、少しでも役に立てるよう、喜んでいただけるようにイベント企画(温泉、映画、お茶会、カラオケ)等を考慮しながら今後も積極的に取り組んでまいります。



おねがい

令和2年4月1日～3年3月末まで、第三次の本格運行の審議査定に入ります。是非とも各住民のご協力を宜しくお願いします。

「1車割当5名にて達成」 応援をお願いします。

今回は「葦」をみて、環境美化を考えてみましょう。先ずどう読まれますか？「アシ」、「ヨシ」この植物は底喰川にも生育している稲科の多年草で、種や地下茎で増えるものです。琵琶湖の浄化に役立っていることでは有名です。また、枝は細かく切って腐葉土にしたり、葦簀(ヨシズ)もこれで造られています。一昨年は葦の群生によってできた島に雀が集まり「ギョギョシ・ギョギョシ・・・」とヨシキリも鳴いていました。街中なのに自然を感じさせる懐かしい場所をみました。これは環境美化の観点からはヨシでしょう。一方で人や風、増水により多量のゴミを受け止め、倒れ、泥も加わって壁塗りとされても、新芽を出し



続け増えていきます。気づくと強固な島を形成してしまいました。

数年前に多額を投じて撤去してもらいましたが、今は場所を変えて葦島ができています。これはヨシといえますか？清掃美化活動を続けていると、これを残すべきか無くすべきか・・・それにしても「資金がない」「人が居ない」「時間がない」で悩んでいます。皆様はどう考えておられますか？



ヨシキリ

猫の糞尿害について

野村 勉

前号(52号)の「犬のフン害」に続いて、今回は「猫の糞尿害について」書かせていただきます。今年は、例年になく雪もほとんど積もらず暖冬であり、猫の活動が盛んです。猫が「庭に入って、糞や尿をして困る」「物置の中などで子猫を産んだ」などの声が多く聞こえます。特に日新地区では家庭菜園を作っておられる方が多く、猫の糞や尿によってせっかく育った野菜が枯れた事実もあります。しかし、猫には犬のような法的な決まりごとが少なく、猫の駆除や捕獲を行う公的機関はありません。

2020年2月に発行された「桐遊(今、悩んでいます)」に森清さんが猫の糞尿害について書かれたものを紹介します。「25年あまり精魂込めてチュールリップを育ててきました…………チュールリップ畑の土が砂地であるために4・5年前より野良猫による糞尿やひっかきによる球根の掘り起こしの被害が多い。そのため、植えた球根の1～2割が毎年開花しない…………特に今年は雪が降らず天気の良い日がおおいため、猫の活動が活発なので更に畑が荒らされることが多い…………」この内容は5年前から地区に訴えて、その後、地区で話し合い、チラシを全戸に配布、その後も連合会でも取りあげたとのこと。しかし、猫は愛護動物です。虐待に当たるような扱い方をしてはいけません。とは言っても猫のフンや尿は寄生虫の卵や、いろいろなバイ菌を持っていることがあり、たいへん不衛生です。……対策の方法は……



街の文化人

乾徳の歴史家 森坂克彦さん

今回は乾徳1丁目にお住いの「乾徳の歴史家」森坂克彦さん(87歳)を紹介します。森坂さんは現在までに乾徳地区の歴史書を数刷発行されています。最初に発行された「乾徳地区の今昔」(平成17年発行)は題字通り乾徳地区の歴史が書かれています。還暦(61歳)から準備を始め、古希の時に出版されました。次は「乾徳地区の今昔-其の2」(平成21年出版)で節目の75歳の時に発行し、乾徳地区の周りの地区のことを書かれたものであります。そして「乾徳地区の今昔-其の3」(平成27年発行)は傘寿(80歳)の時に発行されています。これは写真中心に編集され、戦時中の竹槍訓練の貴重な写真も載せられています。また、冊子としても「日新地区視聴覚協議会20年史」(平成11年)「福井市乾国民学校記念誌」(平成24年)等を書かれています。



何故、このような書誌を書かれたのか？とお伺いしたところ「今まで自分史を書かれたものを沢山見てきたが、どれも自慢話に終始している。後世に残せるもの考えたとき自分の住んでいる街の歴史を書いていこうと思ったから」と答えていただきました。森坂さんはインタビューの間生き生きと語っていただきました。健康の秘訣は、夢を持ち、日々、次の目標に向かって準備をし毎日

(野村 勉)